



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 高萩 勝利
幹事 富澤 藤利
SAA 清水 信弘
会報小委員長 川口登志雄

○例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) ○事務所 いわき市植田町中央一丁目 6 番地の 9
○例会場 ホテルミドリ 〒 974 - 8261 ホテルミドリ内
TEL0246 - 62 - 3737

第 2474 回 例会 平成 24 年 10 月 8 日 (月・晴)

2012~2013 年国際ロータリーのテーマ

特別例会

東京藝術大学副学長 北郷 悟 様
いわき市勿来支所長 荒川 信治 様
いわき市立美術館長 佐々木吉晴 様
いわき市教育委員会教育委員 緑川 幹郎 様

◎会長報告 - 高萩勝利会長

皆さん、今日は。本日は晴天の中「イザナギ イザナミ 2012」除幕式特別例会を行いたいと思います。沢山いらっしゃると思いますお客様のご紹介は実行委員会からお願いします。会長報告は 10 日の例会にまとめて行いますので本日は以上で終了です。

◎幹事報告 - 富澤藤利幹事

10 月 3 日に開催された理事会において協議した内容をご報告します。ロータリークラブ会員増強についてと地区復興補助金運用規程についてと希望の灯りモニュメント建設募金について話し合いました。詳細は次回ご報告致します。

◎各委員会報告

◇出席委員会 - 高木小委員長

本日の出席率は 100 パーセントです。なお、次回は出席奨励賞を差し上げたいと思います。ありがとうございました。

◇スマイルボックス委員会 - 佐藤政司小委員長

いわき勿来ロータリークラブ 創立 50 周年記念事業「イザナギ イザナミ」除幕式おめでとうございます。

いわき市教育委員会教育委員 緑川 幹郎 様

小熊、佐藤 (政)、山下、佐藤 (英)、鈴木、佐久間、佐野、清水、斉藤、田子、赤津、渡辺 (勉) 渡邊 (國)、遠藤、峯口、嵐、秋山、吉野、



ロータリーソング

- 今月は職業奉仕・米山月間です -

4 つのテスト
鈴木 正人 会員



林、富岡、高木、本間各会員及び渡邊公平ガバナーエレクト、高萩会長、生駒会長エレクト、富澤幹事・前回例会休んでごめんなさい。 田子会員

◎ 50 周年記念事業委員会 - 吉野委員長

皆さん、本日はご苦勞様でした。本当に立派な像が完成し、除幕式も終わりました。北郷先生ありがとうございました。北郷先生にはこの後話もお聞きすることになっておりますのでご期待下さい。今日お越し頂いているお客様を私の方からご紹介させていただきます。東京藝術大学副学長北郷悟先生、いわき市美術館の佐々木館長さん、いわき市教育委員会教育委員の緑川幹郎さん、勿来支所長荒川信治さん、勿



来支所の大津さん、ボランティアで本日パフォーマンスをして頂いた熊谷さん、小林さん、鈴木さん、二瓶さん、それから北郷先生の奥様もお越し頂いております。それと熊谷さんのご友人も多数お越し頂いております。



◎ゲスト挨拶 いわき市立美術館



館長 佐々木吉晴 様
不思議なご縁で今年の夏、美術館で 22,000 人を越える北斎展がありました。その時、あまりに嬉しくて 1 万人目、2 万人目に豪華な景品を用意して行っていた所、2 万人目になったのが前会長の赤津さんでした。現在開催中のねことという展覧会もまもなく 1 万人目になろうとしている所です。振り返って見ても連続して 1 万人を越える展覧会はありませんでした。今年に限って入っているのは大震災から 1 年半が経過したからこそ非日常の中に日常的に行っていた芸術を楽しむという気持ちを取り戻したいという思いが入場者につながっているものと考えています。心の中に支えとなるのが 1 つに文化や芸術であることを忘れて、箱物だけを作ってはいけないと思います。私も「イザナギ イザナミ」を見たのは今日が初めてですが、とても良いと思います。北郷さんがお造りになったモニュメントの中で最高傑作のひとつだと思います。植田で生まれ育った北郷さんが東京で活躍され、そして、その最高傑作が植田に半永久的に設置されることになったのは大変素晴らしいことだと思っています。

◎ゲスト卓話



東京藝術大学副学長 北郷 悟 様
皆さん、今日は。本日は大変盛大な式典となり大変嬉しく思っております。芸術を研究し発表することについてまだまだ社会的にもっと理解がないと日本の文化そのものが発展して行かないんじゃないかと思っています。このような機会を頂きましたので彫刻について話しをさせて頂きたいと思っています。私が美術を志すようになったのは幼稚園の頃からです。私は植田出身ですが植田周辺には縄文式土器が沢山出土しております。幼稚園から帰って来ると田んぼ

や山に行くと 1 人で遊んでいると縄文式土器が地面から出てきます。そういうものと出会い破片と破片を合わせているうちに遠い昔のことを思い出していました。そして父親に連れられて後田から出土した棺桶を見たのが大きなものの最初でした。自分のやれることというのは、過去と現在、そして未来へ向って自分が何かを語りかけて行く仕事と漠然と思いつながら美術大学へ進み芸術の道を志すようになりました。

そこで学生達へよく言っていることですが、現実から分離してその範囲内で現実以上のことを為し遂げようと話しています。見えない空間をどのようにコントロールしてリアリティーを生み出していくか、そういったことを研究しております。総合芸術といっても彫刻だけが芸術ではなく、それが全ての空間とか前後の時間を使ってひとつの芸術となっていくのです。この船は私がデザインしました。12500 トンの大型フェリーですが 20 年位前に作ったものです。30 代の頃東京銀座で個展をやっている時に郵船の常務さんがギャラリーに入ってこられて、いきなりこれ下さいと言われお付き合いが始まりました。すると今度船を造るので何か出して来れないかと言われちゃんとデザインして良いですかと聞くと OK の返事をもらい応募しました。私は彫刻をやっていたので形からではなく、空間から入って行きました。船が走るとのこと、風が抜けるということ、フォルムが美しいということの 3 つについて考えて作ってみました。そうしたところ投票の結果私のデザインに決まり、この舟が後にグッドデザイン賞を頂くことになりました。私のような彫刻家でグッドデザイン賞をもらったのも珍しいと思います。そういう訳でモニュメントも周辺の空間、ロータリーがどうか、人がどう歩くのか、山がどこにあるか、その様な状況を考えてあのフォルムを作り、また位置を決めました。本日はお招き頂き大変ありがとうございました。心から御礼申し上げます。



出席状況 正会員数 51 名
本日の出席率 100%